

東京の深奥、山ふところの町をたずねて 日の出町表敬訪問記

議員 木村諭史

さる 10 月 28 日 金曜日、議員一同に村長と議会事務局を加えた総勢 10 名で、東京都西多摩郡日の出町（1955 年合併で誕生、2008 年より新島村と友好盟約を締結）を訪問した。



鉄道のない日の出町。発展のカギは道路網

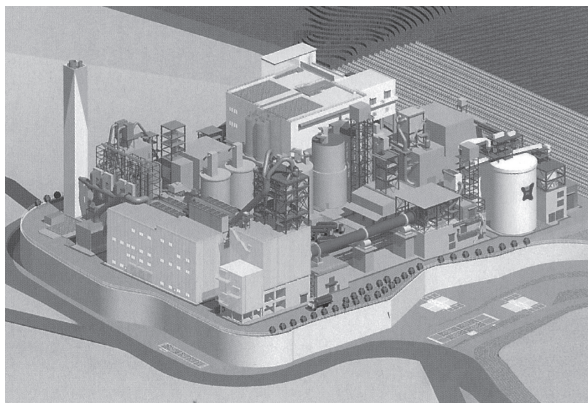
我々は中央線福生駅（福生市）から送迎バスに揺られ、途中イオンモールや誘致企業などを横目に見ながら 25 分ほどで町役場に到着した。日の出町には鉄道の路線や駅がなく、隣市の鉄道駅を利用することになる。その代わり道路交通網が発達しており、圏央道と日の出インターチェンジの開通後、複数の企業誘致に成功し、2007 年にはイオンモールが出店し集客に成功している。人口も 16000 人を超えながらも増加傾向であり、世帯数も税収も増加しているようである。

日の出山荘＝豊かな自然と政治の接点

山麓部には『つるつる温泉』を開業し、その向こうには『御岳山』を有しており、参道として温泉や登山も含めた観光も可能となっている。溪流は比較的流れが穏やかで、子供たちが遊ぶには最適であるようだ。訪れた日の出山荘は 1983 年に当時の中曽根康弘首相が所有しており、日米会談の場所として使用されたようである。美しい溪流と調和しながらも政治の舞台としての格調も備えていた。現在は日の出町に寄贈され観光施設として開放されている。

エコセメントプラント＝近隣のゴミを受け入れ、資源循環へ

多摩地域の 25 市 1 町で構成された東京たま広域資源循環組合による『東京たまエコセメント化施設』と隣接する処分場を見学した。エコセメントとは、可燃ゴミを焼却することで発生する焼却灰を原料にしたセメントであり、同施設では 100% セメントの原料にすることができている。稼働前と比べるとなんと 100 分の 1 にゴミの埋め立て量が減少している。近隣の市からゴミを搬入する都合上、搬入曜日の限定や搬入車の洗浄、埋め立てゴミの飛散防止、計画的な埋め立て管理など、徹底した環境配慮がなされていた。最新技術・人の目を介した管理・周知を徹底することで地域の生活・経済とも調和する施設になっていることが実感できた。



東京たまエコセメント化施設の見取図。

新島との接点＝新島交流は抽選になるほど大人気！

山・渓流・平地を有した日の出町であるが、やはり『海』の環境は新鮮であるようで、新島との交流事業は抽選になるほど人気だそうである。今回は先方の議員数名のお子さんも参加したようで、公私とも議員交流もさかんになりそうである。

地域なりに驚くほどの特色があることをつくづく実感し、お互いに異なる環境とそこをつなぐ人がいることの重要性が感じられた表敬訪問であった。

日の出町の橋本町長、東議長及び議員一同と当村の訪問団一行との記念写真

